

週刊すず辰たっ (第343号) 令和1.6.3

今週も、“すず辰(すずたっ)”が厳選しました農家さんの野菜(果物)たちをお買い上げいただきありがとうございます。ぜひおいしいもの好きなお友達・お知り合いにもお声かけください。お客様の輪が八百屋の力になります。

●今週のピックアップ商品○(来週もあります)

レモン果汁100%。

すず辰の定番レモンを供給してくれる、愛媛は岩城島のブルーレモンファームの古川さん。果汁たっぷりではんわり甘みも感じるレモンをぜいたくに使った“レモネード”が最近人気でしたが、コスト等の問題で製造がストップに！というわけで、レモネードの原料である“レモンストレート果汁100%”の原液を仕入れてみました。レモネードを作るもよし、料理のアクセントにいろいろ使うもよし。炭酸で割るもよし、疲れた時に20mlほどグッと飲むもよし。



新れんこん、仕入れちゃいました。

この時期のれんこん、“新れんこん”と呼ばれ、シーズン最初の若取りで、繊維質が少なく、サクサクで甘みもあり貴重品なのです。が、貴重ってことはお値段もよく、通常価格の3倍以上！毎年ドキドキしながら仕入れるのですが、うーん、ちゃんと売れるでしょうか。味はいいです。何なら生でもサクサクうまし。火を通すなら普段より短めの時間で。食べてってくださいまし！



▲すず辰のこぼれ話▽ 次の京とうふは6/4、6、8、11、13、15です。

6年目の運動会。

長女、小学校最後の運動会。初めての小1のときは“運命走”(くじ運で競技内容が変わる競技)にびっくりも、今では見慣れた風景に。おっきいなぁ！と思っていた6年生に娘自体がなるとは。早いものです。

少子化のあおりで“地区対抗リレー”がなくなり、娘出番なく少しさびしく。

代わりに一番目だつセンター(集団の先頭のど真ん中)でよさこいを踊る姿に、小6の中ではちっこいものの、大きくなったなぁ、としみじみ。

知っている子らが応援団長だったり、ラジオ体操で壇上に上がっていたり、紅白リレーで活躍したり。なんとも子どもたちの成長の早さを感じる運動会でした。

◆ちよっとまじめな話:子どもにどこまで教えるか。◇

日曜は子どもらの小学校の運動会でした。

息子2人が予想以上に足が速くなっていることにびっくり。娘は5-6年生の演武“よさこいそーらん”で、気づけば“センター”の位置!(まぁ、背がちっこいからですが…)

その一方で、長男の“台風の目”を見てもっと飛び越すときは、棒を持つ子は早すぎず遅すぎず、飛びやすい速度で低く持たないと!とか、「ポールを回転するときは、内側の子は中心で踏ん張って皆をぶん回す感じで」と勝手に心で突っ込んでいました。娘の騎馬戦でも、「(騎乗の)娘はちっこいから、対戦している子らの後ろから帽子をさらうくらいがよかったな」と思ったり。

端からみると、競技の上での改善点は浮かぶもので。ただそれを単純に言ってしまっ、良い結果が出たとして、それが子どもらにとっていいのかなどふと追いました。

大人の方が経験値も上ですし、端から冷静に見れば見えることはあります。でも、そこで、「こうやるとうまいくよ」とやらせてしまうと、結果は出るかもしれませんが、子どもら自分たちで「どうやったらうまいくのか」考え、相談し、そして結果を出すという“過程”を奪ってしまうのかなど。

この“過程”って、要は“自分で考え、試し、結果を出す”という行為です。

小学生な我が子たちですが、小学生のうちに大人ががっちり寄り添い結果を出した子が、その後伸び悩んであると思うのです。(もちろんそのまますすく伸びていく子もいるでしょうが) その一端は、上の大人が“教え過ぎてしまう”ことにあるのかなど。

子どもがより良い結果を求めて、試行錯誤しているときに、うまく自分で気づかせるようにヒントを与えるのはいいと思うのです。ただ子ども自身がまだ求めてもないうちから“答え”を与えてしまうと、結果以上に、自ら“考え・行動する”って力を奪ってしまうのかなぁ?、と少々思いました。

ちよど“親の過保護”って言葉が頭に浮かぶ事柄を身近で聞くことが多かったので、元気に走り回る子どもらを見つつ、なんとなく思った日曜でした。

ありきたりですが、子の葛藤を見守るくらいの余裕が親には必要なんだなぁと、改めて。まあここの手助けも必要で。もう少し子どもの成長を見守りたいと思います。

すず辰マガジンがウェブで読めるようになりました↓



《すず辰について》

鈴木辰徳(辰年:43歳。11.9.7歳の3児の父)がH23に開業。「野菜で笑顔を結ぶ」をモットーに、作る人と食べる人の笑顔の架け橋となるべく、素敵な農家さん、野菜果物のおいしさ楽しさをご提案。路面での販売“マルシェすず辰”を経て、H25/3/25念願の店舗オープン! マンガ“八百森のエリー”絶賛応援中! 函館市本通1-24-3(店舗) 店前・店横駐車可。 平日11時半・土曜12時半開店 17時閉店(日祝日休み) TEL/FAX:0138-76-9865 メール: suzutatsu831@ncv.jp HP: <http://suzutatsu831.com/>

そんなわけで、「子どもの見守り・成長」をテーマに、過去の“ちょっとまじめな話”から関連する話を2つほど。

◆ちょっとまじめな話：見守る姿勢とぼやきの効用◆

東京で、子どもらとドラえものの映画を見てきました。ラストシーンで息子であるのび太を見守るママとドラえものの会話に思わずうろと。最近「転ばぬ先の杖」とばかりに子どもを守り過ぎることが増えている気がしています。あまり守りすぎますと、子どもが失敗含めたいろんな経験を、自ら考える機会が減ってしまうため、大きくなってから自分で人生を切り開く力が弱くなってしまいます。「かわいい子には旅をさせろ」とは昔から言われますが、親としてぐっと我慢して見守る余裕が必要だなあと改めて思いました。

マウスに迷路内のエサを探させる実験では、同じ時間内にいろんな道を試した(要は行き止まりと言う失敗をどんどんした)マウスほど、えさにたどり着く最短経路を見つける成功率が高かったとの結果も。「試行錯誤する力」ともいえるかもしれません。

そして、失敗の中には、「試練」ともいえる大きな出来事もあるかもしれません。あまりの体験に、心が傷ついたりということもあるでしょう。でも、そこから立ち上がることで子どもは大切なものを学んでいきます。

女優の宮沢りえさんがこんなことを言っています。『わたし、試練はごほうびだと思ってるんです。苦難は経験したくないかもしれないけれど、じゃあ、まったく経験しないで50歳になったひとと、経験して50歳になったひとだったら、おもしろい話がちゃんとできるのは、やっぱり…。』関西だと、いろんな失敗談が笑い話として話されます。逆に人がしないような経験はおいしいネタであり、有難い話だったり。

芸人のゴルフ松本さんが少年院等での講演で漢字ネタで話をされる中で、「吐く」という字を、「口から+とーのことを言う」と示し、最初は+・ーも吐いていいんだ、と言います。ただ徐々にーを減らしていくと…「吐う」んだと。

何か事を起こそうとするといろんな苦難がやってきます。まるで人生がその人を試そうとしているように。そんなとき、弱音を身近な人に「吐く」のも大切な处世術です。ただグチやぼやきで終わらずに、それを笑い話に昇華したときにその経験は人生の糧となり、その人の歩みを進め、何かが出うのかもしれない。

そして「ぼやける」関係がもっと増えるといいのになあと思う今日この頃です。

『試練はごほうび』って、大人にも言えますね。大変な渦中にいると、とてもそうは思えませんが、そこを乗り越えてみると、その過程があったから今があるというか、身についた心の姿勢、技があったり。

親が与えられるのは、心のパワー(源泉)となるような、愛情をたっぷり幼少期に与えることだけなのかもしれません。

◆ちょっとまじめな話：職人技の継承のためには？◆

4/28ベジフル函館主催の勉強会で「おいしい野菜にはわけがある。～おいしさを支える匠の技とその見分け方～」と題し、小1時間ほどお話してきました。後半、匠の技をどう継承するかって話で紹介したのが下の図。これが結構おもしろいんです。

七飯の松本さんに「息子さんにちゃんと技を伝えてくださいね」と話した時、「そりゃ無理だ」と即答されました。なぜ?と思っていたのですが、この図でいくと「五感で感じる」「よく見て自分で経験しろ」ってところが関係しそうです。棟梁としての責任を負って、全神経をフル稼働して経験したこと(失敗を含めた試行錯誤を経て)でしか身につかない技があるのかなど。

農家さんと話しているとその肌感覚の鋭さにいつも感心されます。「今年のトンボは飛ぶ位置が低いな」とか、「北風が吹くのがいつもより週間くらい早い」とか。まさに五感が鋭いのです。王様いたけの福田さんも、「感覚のない人間に技術は教えられない」って前に言っていましたし、

子供時代に野山で遊び回って五感を鍛えることは大事ですね。

そして「仕事を好きになれ」。大事です。極めつけが「親方にかわいがられる」。人生の真理をついてる気がします。

いつか週刊すず辰を引き継ぐ時が来たらこの4つを肝に人選したいと思います。

いつになりますやら。

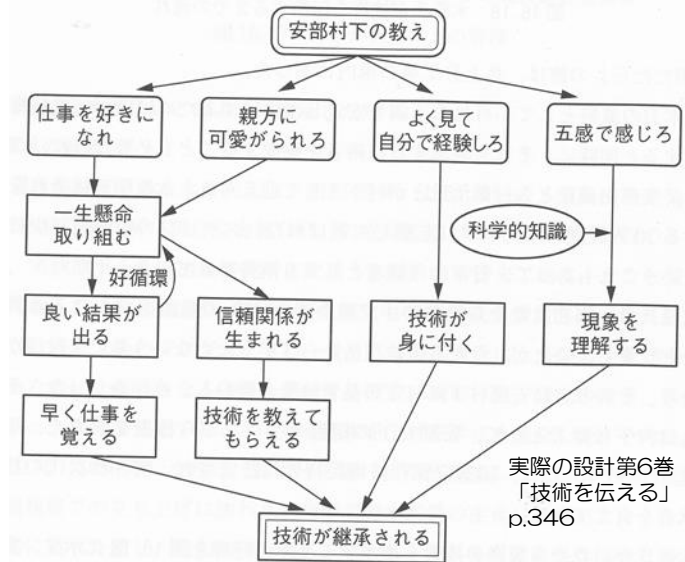


図 16.19 安部村下からの教えと技術継承の関連

実際的设计第6巻
「技術を伝える」
p.346

上で思うのは「好きこそもの上手なれ」。いろんな体験から、自分の好きを見つけて行ってほしいなと思います。

と思いつつ、次男の「まだ自転車乗れない事件?」はどうすんべと思うのです(笑)。まずは彼自身が「自転車乗りたーい!」と思わないとしょうがないのですが、それは、周りの子から、「えー、乗れないのー!」言われて時でしょうか?

それまで父はじっと見守る? 見守るのも親にとっては試練ですかね?